

## キャピラリー電気泳動(CE)による 軟質ポリウレタン中の残存アミン系触媒の定量

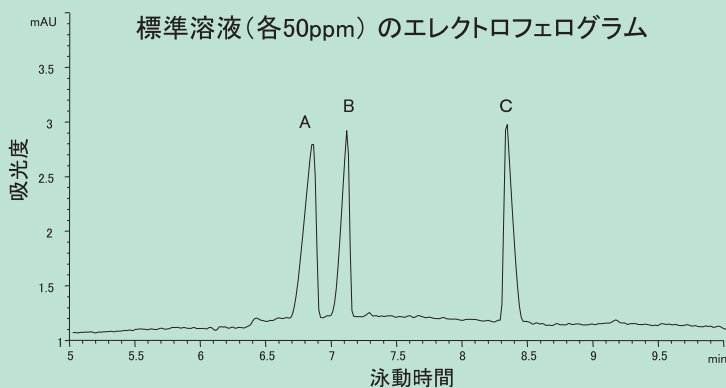
### 概要

車のシートや内装材などに広く使われる軟質ポリウレタンは、触媒として使用されるアミンが多いと臭気や着色が問題になることがある。

ポリウレタン中のアミンをガスクロマトグラフィーや液体クロマトグラフィーで分析すると、条件の検討のため長い時間を要したり精度の問題も発生する。

当社ではキャピラリー電気泳動装置を用いて、長年の経験を活かし短時間で精度の良い分析を行うことができる。

### ● 分析例 2種類の軟質ポリウレタン前処理液と標準溶液の キャピラリー電気泳動分析比較



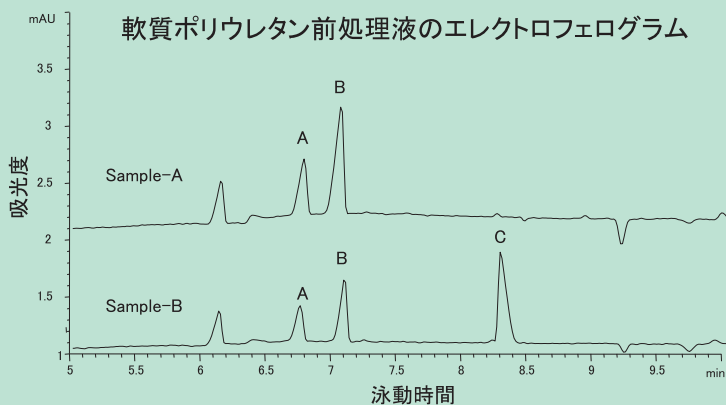
—成分名—

A : Bis(2-Dimethylaminoethyl) Ether

B : Triethylene diamine [DABCO™]

C : 4-[2-(Dimethylamino)ethyl]morpholine

※このケースにおける10~150ppmまでの  
相関係数は0.99



一般に入手できる2種類の軟質ポリウレタン前処理液のエレクトロフェログラムを左図に示す

夾雑成分の影響を受けることなく、アミン成分のみのピークが検出された(定量再現性は相対標準偏差で10%以下)

株式会社 三井化学分析センター

<http://www.mcanac.co.jp>

お問合せ ☎03-5524-3851